

学習指導係

1 事業名 先生応援プログラム

2 事業遂行上の課題

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための一斉休業等の措置を受け、GIGAスクール構想による高速大容量の校内ネットワークと1人1台端末の整備が一気に加速した。これにより、県内ほぼ全ての自治体で令和2年内に児童生徒用の端末が届き、活用できる環境が整ったため、教員のICT活用指導力向上が急務となった。

3 事業遂行上講じた取組

表1 第一期「G Suite for Education」活用研修概要

(1) 取組内容

5月中旬に県内全ての教職員へのGoogleアカウントの付与が完了したことを受け、6月から、Googleのビデオ会議システム

	日	テーマ	視聴数
第1回	R2.6.12	「G Suite for Education」って？～ログインしてみよう～	4,325
第2回	R2.6.17	どんなアプリが使えるの？～「ドライブ」の活用を中心に～	2,919
第3回	R2.6.19	「Classroom」を使ってみよう～クラスを作成してみよう～	2,291
第4回	R2.6.24	特別講座～AIドリルについて知ろう～	979
第5回	R2.6.26	「Meet」を使ってみよう～ビデオ会議をしてみよう～	1,033
第6回	R2.7.1	「Classroom」活用法～「フォーム」で課題を出そう	1,396
第7回	R2.7.3	特別講座～プログラミング教材を使ってみよう～	750

※視聴数は令和3年3月現在

Meetのライブストリーミングを用い、「第一期G Suite for Education（現Google Workspace for Education）活用研修（全7回）」を行った（表1）。県内の公立学校の総教員数はおよそ1万人であるが、第1回の視聴数は4,000回を超え、関心の高さがうかがえた。校務等で視聴できない教員のために研修は録画し、動画を後日「YouTube 教育研究所チャンネル」にアップロードした。公開から9か月で、視聴数の合計は、1万3千回以上にのぼる。

10月には、事業推進係と共に、第二期の研修として「先生応援プログラム」をスタートさせた。「先生応援プログラム」は、Google Workspace for Education、ロイロノートスクール、Adobe Spark等、県域で共通して活用できるコンテンツやプログラミング教育、実践交流など教員向けの研修の他、自治体のアカウント管理者や学校管理職、保護者向けの研修等、対象や内容の異なる20以上のプログラムを用意した（図1）。各研修の講師については、県域共同調達に関わるものは関係企業が、それ以外は指導主事等が担当した。なるべく多くの教員が参加できるよう、一部のプログラムを除いて時間帯を放課後の30分間とし、Google MeetやYouTubeライブを用いてオンラインで実施した。時間の都合がつかないが研修を受けたいという教員の要望に応え、終了後にYouTubeチャンネル等で動画の公開を行った。

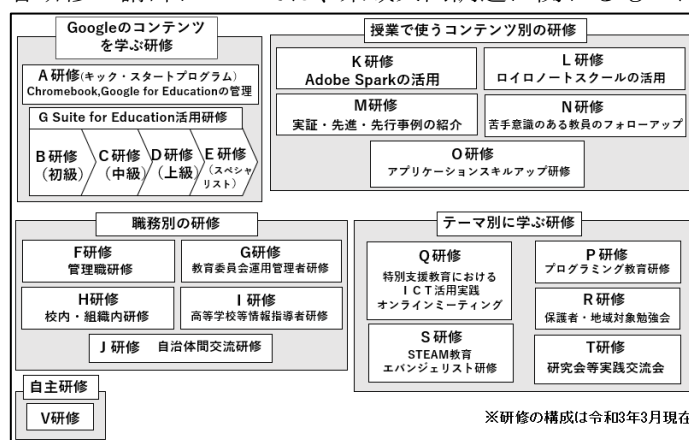


図1 「先生応援プログラム」の概要

ア 総合ガイダンスの実施

「先生応援プログラム」のスタートに際し、全プログラム共通の総合ガイダンスをYouTubeライブで行い、GIGAスクール構想の現状とプログラムの概要を伝えた。実施に当たっては、周知のため全教員にメールを送信した。

イ Web サイトの活用

教育研究所Web サイトにプログラム別のページを作成し、日程や内容を掲載した。参加申込みの受付にはGoogle Formsを用い、参加希望者は同ページ上で申し込むことができるようにした。ページ上から受講後アンケートを送信すると、研修の内容に応じてポイントが付与される「スターポイントプログラム（図2）」も実施し、受講者の意欲喚起に努めた。



図2 スターポイント

ウ 各プログラムの詳細（抜粋）

(7) B、C、D、E研修（Google Workspace for Education 活用研修）

B研修を初級、C研修を中級、D研修を上級、E研修をスペシャリストと位置付け、段階的にステップアップしていく研修とした。B研修は、Google Meet 又はYouTube ライブでの研修を視聴した後、オンライン講座「gacco」で指定の講座を受講する形式で行った（図3）。C研修以降は、Google Meet を通じて20名以内の受講者が端末を操作しながら体験的に学ぶ形式で実施した。B研修を20回、C研修を14回、D研修を10回（それぞれ同じ内容）開催し、延べ2,000名以上が参加した。



図3 B研修運営の様子

(4) L研修（ロイロノートスクールの活用研修）

L研修は、ロイロノートスクールの基本的な機能を学び、授業で活用できる知識と技能を身に付ける研修とした。延べ950名以上が参加した。

(7) M研修（実証モデル、先進的教育の実践交流）

M研修では、端末を活用した授業や行事等に積極的に取り組んでいる学校による実践報告をGoogle Meetを用いて実施し、延べ250名以上が参加した。

(2) 成果

1人1台端末の導入という変化の中、教員の戸惑いや不安を軽減するため、6月からの第一期オンライン研修から10月以降の「先生応援プログラム」へと、スピード感をもって研修を実施することができた。新型コロナウイルス感染症感染拡大以前から県域で同一ドメインを利用したアカウント活用の準備を進めていたことが奏功し、県内全ての教員を対象とした大規模な研修が可能となったと言える。「先生応援プログラム」では、10月の開始以降、全プログラムを通じ140回の研修を実施し、延べ4,000名以上が参加した。受講後アンケートでは、研修を通して学んだこととして、「ICT機器の活用の困難さを払拭する、日常的に活用するためのヒント」「端末を連絡帳として利用するなど実践の具体」等が挙げられており、各プログラムが、1人1台端末を活用した取組に指針を示し、更に県内の教員同士の情報共有の場となっていることがうかがえた。

(3) 課題

研修を重ねるにつれ、受講者の固定化が目立ちつつある。全教員への案内メールの一斉送信やリーフレットの配布等、多様な手段を用いた周知徹底が求められる。また、プログラムが各校のニーズに合った役立つものであったのかについての詳細な検証を行うには至っていない。

4 来年度（令和3年度）の取組

「先生応援プログラム」の効果を検証するため、令和2年度中に、研修への参加状況やICTの活用等に関する全教員対象調査を行う。令和3年度は、その回答の分析を基にプログラムを再構築し、より実践的な研修講座へと進化させ、教員の更なるスキルアップを目指す。